

JCI神戸大会

第25回生コンセミナーから

〈下〉

コンクリート工学年次大会2018(神戸)で開催された第25回生コンセミナー(部会長・日・大野義昭大阪大学名誉教授)とジョイントして「未使用生コン」を商品化した滋賀県生コンクリート工業組合、17人の女性従業員が在籍し事業所内に業界初の託児所を開設した白石建設(岡山県岡山市、武南浩二社長、大阪広域生コンクリート協同組合の小学生以下の子どもを対象とした絵画コンクールとアシタータラムを活用した最優秀作品の掲示、香川県生コンクリート工業組合などが開催している高校生による「コ

ンクリート甲子園」などの事例を取り上げ、「生コン業界の未来に関して、何が正解なのかはわからない。しかし、手をこまねいていては現状は良くならない。われわれ自身が仕事を創り、未来を変えようという発想で、業界にイノベーションを引き起こしていくことが重要だ」と述べた。



てはならないが、ヒントとなるのは滋賀県・近江商人の『三方良し』の精神ではないか。生コンの立地条件のよさを最大限に生かして、技術の『見える化』、女性の進出誘導、地産地消などを進めることで、売り手よし、買い手よし、世間よしのイノベーション展開を図るべき」とした。

が載ると13時。これらは、女性を含め多様な人々の参入を阻む障壁となりうる。今後に向け、三つのステップを提案したい。第1段階の「試験器の軽量化」では労力の軽減を図り、第2段階「各種試験方法の抜本的改革」では必須ではない業務・作業の撤廃を目指す。第3段階で「性能規

定型生コンJISへの移行」に至ると、多様な人材や工場の個性を生かせる生コン工場への試験方法を紹介した。その後、第1部、第2部の登壇者も含めて討論し、規格の変更まで視野に入れた生コン業界の革新の可能性について、課題や期待も含めて様々な意見が出された。

最後に、フロアの意見等々を軽くすることも当り前の話。コンクリート分野の進歩の遅さが表れている」とコメントした。

「コンクリート工学年次大会2018(神戸)で開催された第25回生コンセミナー(部会長・日・大野義昭大阪大学名誉教授)とジョイントして「未使用生コン」を商品化した滋賀県生コンクリート工業組合、17人の女性従業員が在籍し事業所内に業界初の託児所を開設した白石建設(岡山県岡山市、武南浩二社長、大阪広域生コンクリート協同組合の小学生以下の子どもを対象とした絵画コンクールとアシタータラムを活用した最優秀作品の掲示、香川県生コンクリート工業組合などが開催している高校生による「コ

ンクリート甲子園」などの事例を取り上げ、「生コン業界の未来に関して、何が正解なのかはわからない。しかし、手をこまねいていては現状は良くならない。われわれ自身が仕事を創り、未来を変えようという発想で、業界にイノベーションを引き起こしていくことが重要だ」と述べた。

てはならないが、ヒントとなるのは滋賀県・近江商人の『三方良し』の精神ではないか。生コンの立地条件のよさを最大限に生かして、技術の『見える化』、女性の進出誘導、地産地消などを進めることで、売り手よし、買い手よし、世間よしのイノベーション展開を図るべき」とした。

が載ると13時。これらは、女性を含め多様な人々の参入を阻む障壁となりうる。今後に向け、三つのステップを提案したい。第1段階の「試験器の軽量化」では労力の軽減を図り、第2段階「各種試験方法の抜本的改革」では必須ではない業務・作業の撤廃を目指す。第3段階で「性能規

定型生コンJISへの移行」に至ると、多様な人材や工場の個性を生かせる生コン工場への試験方法を紹介した。その後、第1部、第2部の登壇者も含めて討論し、規格の変更まで視野に入れた生コン業界の革新の可能性について、課題や期待も含めて様々な意見が出された。

最後に、フロアの意見等々を軽くすることも当り前の話。コンクリート分野の進歩の遅さが表れている」とコメントした。

最後に、フロアの意見等々を軽くすることも当り前の話。コンクリート分野の進歩の遅さが表れている」とコメントした。



調査研究成果をもとに①生コンクリート製造業の現状とこれからの目指すべき未来展望②製造システムのイノベーションと未来展望③女性技術者の活躍の場を広げるためのJIS改革の3件の話題提供があった。

冒頭、検討委員会から調査研究成果をもとに①生コンクリート製造業の現状とこれからの目指すべき未来展望②製造システムのイノベーションと未来展望③女性技術者の活躍の場を広げるためのJIS改革の3件の話題提供があった。

①については、岡本主査がコンクリートやコンクリート製造業に関する各種イメーシ調査の結果を紹介。「大学生にアンケートを行うと、『重要

学問があるのか』よくひび割れていて、強いというイメーシはない』『殺伐・殺風景』他に選択肢がないから仕方なく使用しているイメーシ』など、結構ショックな答えもあった。イメーシアップに力を入れていかなく

姿が見えてくると思われ「とした。具体的第一歩として、プラスチック製の試験器や型枠等の活用を提案。「軽量化により試験の精度が上がったとして、試験値を適切に修正すればよい。重たい試験

器を使い続けるより生産的だ。そもそも、軽い試験器や型枠の使用を前提とした規格や試験方法を考案すべき時代にきていると考える。工程管理用強度試験も、毎日サンプルを取って証明するよりも、世界に冠たる品質を誇るわが国のセメントが毎バッチに定量入っていることで証明するシステムに変えてもいいのではないか」と述べ、同WGで考案した複数の新しい試験方法を紹介した。

その後、第1部、第2部の登壇者も含めて討論し、規格の変更まで視野に入れた生コン業界の革新の可能性について、課題や期待も含めて様々な意見が出された。

最後に、フロアの意見等々を軽くすることも当り前の話。コンクリート分野の進歩の遅さが表れている」とコメントした。

軽い試験器「前提に」

障壁除く取り組み提案

調査研究成果をもとに①生コンクリート製造業の現状とこれからの目指すべき未来展望②製造システムのイノベーションと未来展望③女性技術者の活躍の場を広げるためのJIS改革の3件の話題提供があった。

冒頭、検討委員会から調査研究成果をもとに①生コンクリート製造業の現状とこれからの目指すべき未来展望②製造システムのイノベーションと未来展望③女性技術者の活躍の場を広げるためのJIS改革の3件の話題提供があった。

①については、岡本主査がコンクリートやコンクリート製造業に関する各種イメーシ調査の結果を紹介。「大学生にアンケートを行うと、『重要

学問があるのか』よくひび割れていて、強いというイメーシはない』『殺伐・殺風景』他に選択肢がないから仕方なく使用しているイメーシ』など、結構ショックな答えもあった。イメーシアップに力を入れていかなく

姿が見えてくると思われ「とした。具体的第一歩として、プラスチック製の試験器や型枠等の活用を提案。「軽量化により試験の精度が上がったとして、試験値を適切に修正すればよい。重たい試験

器を使い続けるより生産的だ。そもそも、軽い試験器や型枠の使用を前提とした規格や試験方法を考案すべき時代にきていると考える。工程管理用強度試験も、毎日サンプルを取って証明するよりも、世界に冠たる品質を誇るわが国のセメントが毎バッチに定量入っていることで証明するシステムに変えてもいいのではないか」と述べ、同WGで考案した複数の新しい試験方法を紹介した。

その後、第1部、第2部の登壇者も含めて討論し、規格の変更まで視野に入れた生コン業界の革新の可能性について、課題や期待も含めて様々な意見が出された。

最後に、フロアの意見等々を軽くすることも当り前の話。コンクリート分野の進歩の遅さが表れている」とコメントした。